

はまなす句会（五月二十五日）（第百十一回）

淡きこと余生にも似て桐の花

圭二

湧き水の流れる音に夏兆す

菊枝

一と雨に新緑極む里の山

由美子

新緑と清流ぬける山電車

久子

人の世は過ぎれば僅か夏の海

克史

じんわりと諭すがごとく穀雨かな

玲子

しぶきあげ舟の先々夏きたる

則子